

研究課題：新型コロナウイルスワクチン接種による唾液の免疫持続性および口腔細菌叢の変化

研究者名：植原 治¹⁾，安彦善裕²⁾，長澤敏行³⁾，三浦宏子¹⁾

所 属：¹⁾ 北海道医療大学 歯学部 口腔構造・機能発育学系 保健衛生学分野

²⁾ 北海道医療大学 歯学部 生体機能・病態学系 臨床口腔病理学分野

³⁾ 北海道医療大学 歯学部 総合教育学系 臨床教育管理運営分野

【目的】

口腔は、SARS-CoV-2 による新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の重要な感染経路の1つであり、感染者では唾液中に高濃度でウイルスが存在している。わが国でも COVID-19 ワクチン接種が開始され、これまでに、ワクチン接種による口腔細菌叢の変化について全く検討されていない。そこで本研究では、被験者からワクチン接種前後で唾液を採取し、ワクチン接種に伴う口腔内細菌叢変化を探索した。

【方法】

- 1) 口腔内診査：はじめに被験者には研究目的を十分に説明し、書面による同意を得た。歯科疾患の指標は、DMF 指数および CPI を用いた。対象者は、北海道医療大学病院および北海道医療大学歯学部の教職員 40 名とした。
- 2) 唾液の採取：COVID-19 ワクチン接種前（Before）、1 回目の接種 3 週間後（After1）、2 回目の接種 3 週間後（After2）、接種後 6 ヶ月後（After3）に唾液を遠沈管に採取し、-80℃フリーザーで保管した。
- 3) 唾液中口腔内細菌叢の測定：唾液から DNA を抽出し、次世代シーケンサーを用いて 16SrRNA 細菌叢解析を行った。解析には QIIME2 を用い多様性と ANCOM 解析、PICRUST2 を用いて機能予測解析を行なった。

【結果】

- 1) 歯科疾患指標：COVID-19 ワクチン接種によって、Before と After3 間で DMF 指数および CPI に変化は認められなかった。
- 2) 細菌叢解析：COVID-19 ワクチン接種によって、Before と After3 間で口腔細菌の多様性を低下させることが明らかになった。また、属レベルで *Actinomyces*、*Atopobium*、*Rothia*、*Selenomonas*、*Abiotrophia*、*Aggregatibacter*、*Corynebacterium*、*Actinobacillus* および *Haemophilus* が、Before グループよりも After3 グループで低い割合で存在していた。
- 3) 機能予測解析：COVID-19 ワクチン接種によって、細菌の糖代謝を上昇させる遺伝子機能変化が確認された。

【結論】

COVID-19 ワクチン接種後 6 ヶ月経過すると、口腔細菌叢の多様性が低下すること、う蝕や歯周病の原因となりうる口腔細菌の変化がないこと、歯科疾患指標に変化がないことが明らかになった。